

# 助成事業実施報告書

年 月 日

## 助成事業実施報告書

団体名 しゅうしんこう晴天食堂

代表者・役職名 氏名 代表 名越 正一

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

真如苑 こども食堂 支援助成

### 2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

月に1度、会食を基本としました食堂を開催しています。未就学児から中学生までの子供を中心とした食堂です。親子での参加も大歓迎です。地域の方々へ声を掛けてお手伝いをしていただいております。また、関西国際大学や神戸常盤大学などの大学の学部とも連携を取らせていただき、大学生のボランティアを中心とした学習支援を不定期に度開催しています。SDGsの目標の一つでもありますフードロス対策としてフードパンtriesの開催もしております。おもに1人親世帯を中心としております。それと、おたのしみ行事を季節ごとに開催しております。

### 3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

年度当初の予定通り毎月（12ヶ月）行事の実施が出来ました。食堂だけではなく、お楽しみ行事や学習会なども開催できました。食事は苦手な子供達や親御さんにはお楽しみ行事の方に参加していただく事が出来たのは大きかったです。年度を通しての参加者数は1000人に及ぶ方々が参加してくださいました。

年代を超えての子供達の繋がりが出来ました。年上の子が年下の子を遊んでくれたり、お世話をしてくれたりするようになりました。そのお陰で、お母さん方の参加もしやすくなりました。また、進んで食事のお手伝いをしてくれる子供達も来てくれるようになりました。

新しい地域のコミュニティとして確立しつつあるような感じがします。子供も大人も楽しめる居場所として地域に少しずつ認知していただけるようになりました。

### 4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

運営スタッフと学生ボランティアの確保が難しいです。特に学習支援においては、大学生のボランティアの協力は必須になってきますので、対策を立てなければなりません。また、食材の確保も安定しているわけではありませんのでそこも課題の一つであります。この行事を（プロジェクト）を通して地域に新しいコミュニティを確立して、周囲に喜んでいただけるような活動をしていきたいと思います。子供だけではなく、親御さん、特にお母さんの居場所になつて行けるようにしたいです。子供の心の安定は、母親の心の安定が絶対条件になってきますので、お母さん方の心の寄り所としても今後は活動をしていきたいと思います。

### 5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

